

平成30年度 AO1期入学試験

基礎学力試験問題 (小論文)

1. 試験時間は、60分間です。
2. 問題は、この冊子の1～4ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
3. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
4. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
5. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
6. 終了の合図があったら、すぐ筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
7. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
8. 不正な行為があった場合は、解答をすべて無効とします。
9. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 保健医療学部

受験番号		氏名	
------	--	----	--

厚生労働省によると、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」である健康寿命は、平成25（2013）年時点で男性が71.19年、女性が74.21年となっており、年々伸びて来ている。健康で生き生きとした生活を送るためには、健康寿命を伸ばす取り組みが重要である。また、それと同時に、日常生活の制限されている部分への援助も重要である。

65歳以上の高齢者の健康状態について、厚生労働省の調査結果を図1、図2に示す。図1は「65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者率（人口千対）」であり、図2は「65歳以上の高齢者の日常生活に影響のある者率（内容別、複数回答）（人口千対）」である。ここで「有訴者」とは、病気やけが等で自覚症状のある者をいい、「有訴者率」とは、人口千人に対する有訴者数をいう。また、「日常生活に影響のある者」とは、現在、健康上の問題で、日常生活動作（起床、衣服着脱、食事、入浴など）、外出、仕事、家事、学業、運動等に影響のある者（入院者を除く）をいう。

問題 次の問いに答えなさい。

問1 図1「65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者率（人口千対）」を見て、以下に答えなさい。

- 1) 65歳以上の高齢者の有訴者は、おおよそ何人に1人であるか。小数第1位を四捨五入し、解答欄の（ ）内に整数で書きなさい。

おおよそ（ ）人に1人

- 2) 65歳以上の高齢者のうち、日常生活に影響のある者は何%であるか。小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求めなさい。

約（ ）%

- 3) 65歳以上の高齢者の日常生活に影響のある者率で、女性が男性を上回っている年齢層は、何歳以上の年齢層であるか答えなさい。

（ ）歳以上

問2 図2「65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者率（内容別、複数回答）（人口千対）」をみて、男性と女性が日常生活で最も影響を受けている内容を、それぞれ答えなさい。

男性 (_____)

女性 (_____)

問3 図1の「65歳以上の高齢者で日常生活に影響のある者率」の特徴を、年齢層の視点から述べなさい。そして、65歳以上の高齢者で日常生活に影響のある者に対して、どのような生活上の援助が必要と考えるか。その理由とともにあなたの考えを述べなさい。なお、解答は400字以内にまとめなさい。

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

100

200

300

400

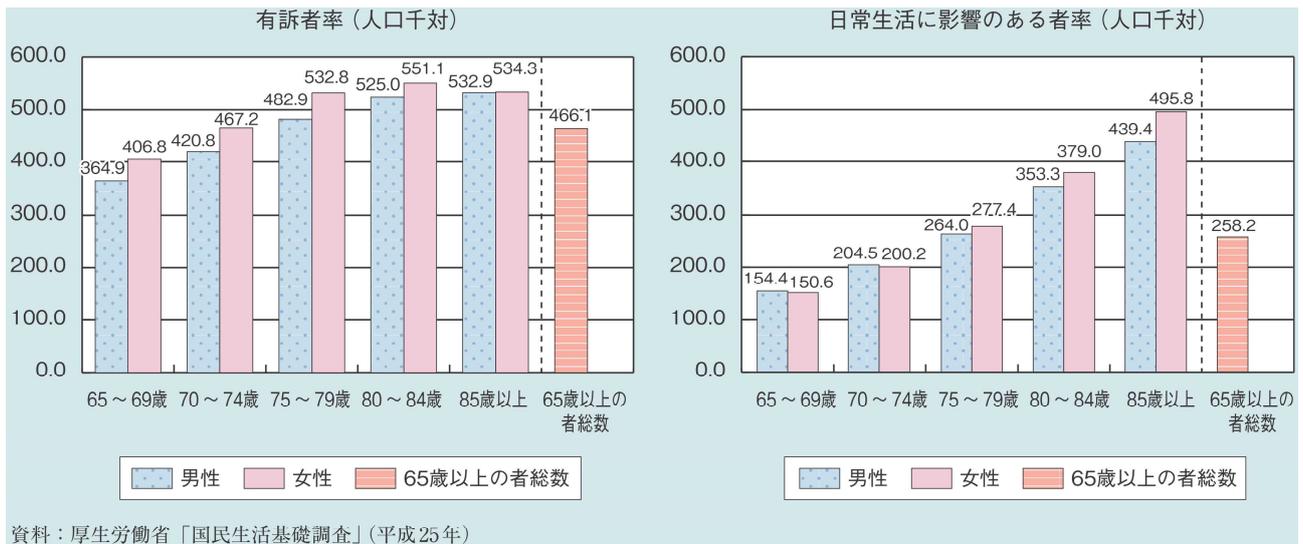


図1 65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者率 (人口千対)

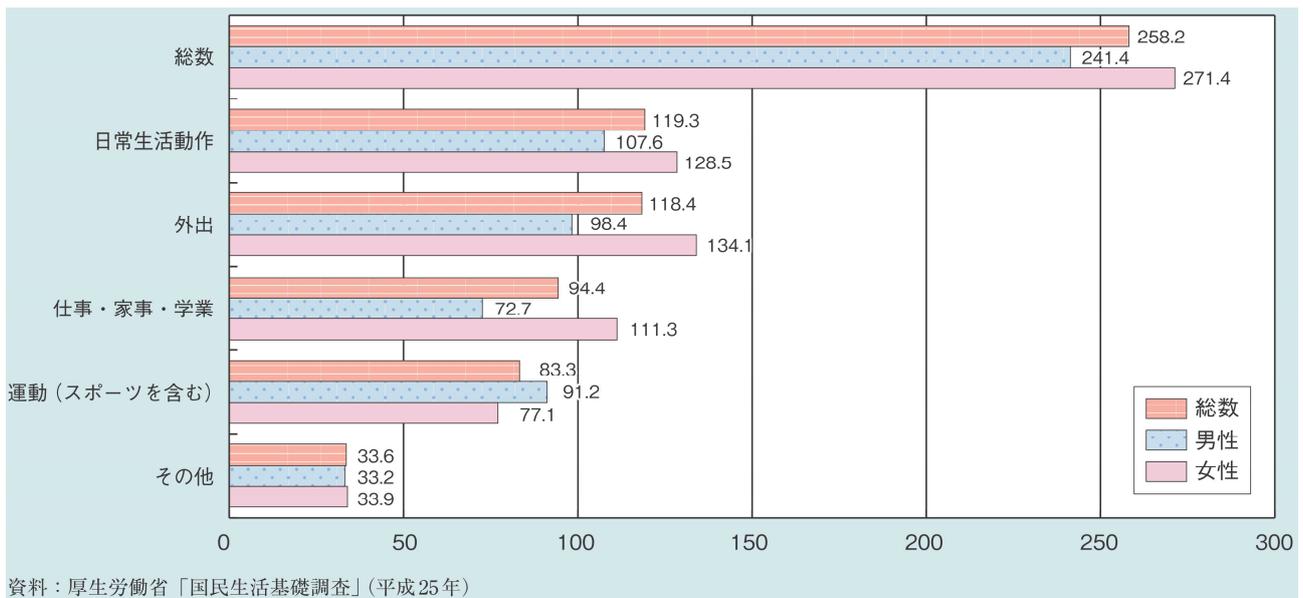


図2 65歳以上の高齢者の日常生活に影響のある者率 (内容別、複数回答) (人口千対)

出典：平成28年版高齢社会白書 (厚生労働省)